5階病棟で死亡された患者さんのご家族の方へ

【研究テーマ】

地域包括ケア病棟を有する慢性期病棟におけるキラーシンプトムに関する実態調査

【研究の目的】

キラーシンプトムという言葉は「呼吸不全や循環不全、中枢神経障害、代謝不全など死に結びつく可能性のある危険な前ぶれ」の意味として広く使われています。複数の文献において、心肺停止症例の多くは6～8時間前に、気道・呼吸・循環・意識の異常や悪化など何かしらの死に結び付く危険な前ぶれ＝キラーシンプトムがみられると言われています。そして、一番患者の近くにいる看護師がキラーシンプトムを察知してアセスメントができれば、６～７割の予期せぬ心肺停止を防ぐことができる可能性があるといわれています。

そこで、本研究では当院の5階病棟で死亡した患者さんの6時間前から死亡までを、看護師がどのように観察、評価、共有し、患者の状態をとらえていたか実態を調査し当病棟に勤務する看護師のキラーシンプトムに関する観察や対応を明らかにすることを目的としました。

この研究で得られる成果は、今後慢性期病棟で働く看護師の急変予測や対応力の向上につなげられるようにいたします。

【研究期間】

2024年3月から2024年10月まで

【対象となる方】

2017年1月１日～2019年12月31日までに当院５階病棟において、死亡された患者全症例を対象とします。

【研究の方法】

死亡された時間から6時間前までの診療録、看護記録を遡り、看護記録には何が書かれているのか調査、集計を行っていきます。看護師がどのような症状に着目し観察しているのか、どのような前ぶれを掴んでいるのか、不足している情報で多いものはなにか、得られた情報の特徴を明らかにし、実態調査をします。

この研究のためだけに新たなデータを収集するための調査などは実施いたしません。

【個人情報の保護】

　本研究は北松中央病院看護研究委員会にて承認を得ており、また研究対象者の診療録および看護記録からの情報収集は病院長の許可を得て実施しております。

収集した情報は、外部に漏洩することのないよう、慎重に取り扱います。収集した情報は、解析する前に氏名・患者IDなどの個人情報を削除し新たな符号（番号）を付け、どなたのものかわからないようにします。収集した情報。データ等は厳重な管理のもと、研究終了後10年間保存されます。保管期間終了後には、記録媒体内のデータを完全消去いたします。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますのでした期までご連絡ください。

この研究で得られた成果は個人情報が明らかにならないようにしたうえで、当院内外で報告することがあります。

　この研究のためにご家族のデータを使用してほしくない場合は、下記の問い合わせ先に2024年7月末までにご連絡ください。その後の同意の取り消しについては、データを暗号化し個人を特定することができないため、撤回することができませんのでご了承ください。研究にご協力いただけない場合でも、将来にわたってご家族の方々に不利益が生じることはありません。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

　この研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

　尚、ご家族への謝金はございません。

この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に、下記の連絡先までお問い合わせください。

2024年 4月

【連絡先および担当者】

地方独立行政法人　北松中央病院　5階病棟

研究責任者：病棟師長　中倉 美鈴

電話　0956-65-3101　（平日　8：30～17：30）

E-mail：kangobu@hokusho.dr-clinic.jp